



定林寺に眠る 県指定文化財の銅鐘

岡岸にある玉叟山定林寺は750年以上の歴史をもつ由緒ある寺院です。その本堂内に、県指定文化財の銅鐘が安置されているのを見なさんはご存知でしょうか。今回は定林寺の大山定隆住職に、銅鐘の歴史について話を伺いました。

下館城主水谷氏と定林寺

定林寺は元々稲野辺付近にあり、当時は真言密教の寺院でした。文明10年(1478)に下館城初代城主・水谷勝氏によって、武士の精神に適していた教えである曹洞宗に改宗され、現在の場所に移動しました。「定林寺は161年間、水谷家の菩提寺として栄えました。安置されている



和田 恵子 さん(榎生一丁目)

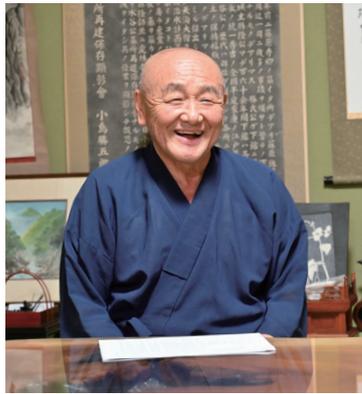
県指定文化財を保管する立場としての責任に、長い歴史をもつ寺院の真髓を感じました。



銅鐘は青銅造の天平式梵鐘で、室町時代に作られたものです。永禄10年(1567)に水谷家七代勝俊公によって寄進されました」と、大山住職は定林寺と水谷氏のつながりを教えてくれました。

約450年と歴史ある銅鐘は、かつて寺の外に設置され、江戸時代まで撞き鐘として時刻を告げていました。しかし保存の観点から、大山住職が前任職に相談し、平成16年に本堂内へ移動されました。現在外に設置されているのは新たに铸造された梵鐘で、参詣者が自由に撞くことができます。

また、全ての銅鐘には池の間と呼ばれる胴の部分に銘文が刻まれ、鐘



定林寺 大山定隆住職

銅鐘に刻まれた銘文と訳(一部抜粋)

の由来などの記載があるそうです。「定林寺の銅鐘は『下館村』の文字とともに、勝俊公が鐘を寄進した日付などが書かれています。みなさんも銅鐘を見る際は、刻まれた文に注目してほしいです」と話す大山住職からは、当時の歴史や人々の思いを感じてほしいという気持ちが伝わってきました。

板谷波山との関わり

この銅鐘は、水谷氏との関連が刻まれているといった歴史的価値の高さや、状態の良さが評価され、昭和38年に県指定文化財に登録されました。登録の背景には、市出身の陶芸家、板谷波山の尽力があったと言われてます。昭和6年、下館尋常高等小学校(現下館小学校)発行の「郷土読本」には、波山が銅鐘の保存法

常州伊佐郡奥崎郷下館村
これは、常州伊佐郡奥崎郷下館村の

玉叟山定林禅寺の鐘樓である。

現住喚之鈍比丘置之

現住職の喚之鈍比丘が鐘を置く。

大檀那 水谷兵部大輔藤原勝俊

檀家である水谷勝俊が、

干時永禄十季 三月八日

永禄10年3月8日に寄進した。



平成16年に作られた梵鐘。自由に鐘を撞くことができるが、看板に記載された撞き方は必読。

について研究していると記載があります。一説には、国宝への指定を目指していたとのこと。残念ながら国宝にはなりませんでしたが、波山と関係があったと分かると、違った印象を受けるのではないのでしょうか。

取材を終えて

みなさんにはぜひ定林寺を訪れ、筑西市の誇る文化財を間近で感じていただきたいです。定林寺は、私たちの地域の歴史や文化を守り続ける大切な存在。ぜひ静かに参拝してください。銅鐘の見学を希望する場合は、事前に住職へお声がけをお願いします。

▼定林寺ホームページ

